



Profile

- 立命館大学大学院理工学研究科博士後期課程
総合理工学専攻修了
- 独立行政法人防災科学技術研究所 研究員
- 国土交通省国土交通政策研究所 研究官
- 京都大学工学研究科 研究員
- 兵庫県立大学防災教育研究センター 准教授
- 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 准教授→教授
- 兵庫県立大学生命理学研究科 准教授

阪神・淡路大震災の復興住宅や、防災研究拠点が集中するHAT神戸で、都市計画の観点から、インフラ整備やまちづくりのための制度について研究を進めています。

Q1. 先生の専門分野を教えてください。

専門分野は、土木計画という分野です。インフラを中心として地震や水害のような災害に強いまちづくりのための研究です。例えば堤防やダムを作るというハード整備だけではなく、地域住民の自助・共助の土台となるコミュニティで防災に取り組む仕組みのようなソフト面の施策までを研究しています。つまり、総合的な視点からまちを守り、災害に対して強いまちを作るための研究です。

Q2. 減災復興研究科があるHAT神戸の住民として、まちづくりに参画されるのはどんな理由ですか。

研究者として様々なコミュニティで「まちづくりの大切さ」「住民参加の大切さ」を話してきましたが、ふと我に返ると私自身が住んでいる場所のまちづくりに参加していないことに気づき、神戸に移り住んだことを機に、私も参加し、学んでいきたいと思いました。私自身が住民側の視点を持ち、施策や制度を考えられるようになりました。

その中で、2015年には、本学の学生と地域の交流拠点「ほっとKOBÉ」を開設しました。

Q3. 地域の交流スペース「ほっとKOBÉ」を立ち上げたのは、どのような具体的な経緯ですか。

阪神淡路大震災から20年以上経過した復興公営住宅のなかで、孤立したり、孤独を感じたりしている高齢者が非常に多いということを知った学生が、高齢者と地域の人たち、また支援する学生自身を繋ぐような活動ができないかと考えたことを受けて、「ほっとKOBÉ」を作りました。1年経過して、「こんにちは」と声をかけていただいたり、学生たちに「これ食べ」とか「これ飲み」と、非常にあたたかく接してもらい、学生たちがお役に立つのではなく、逆にお世話されてるような状況です。

今まで団地の中で挨拶もしたことがなかった高齢者と子どもたちが、交流スペースの外でも挨拶を交わすようになっていきます。コミュニティの絆は一朝一夕では築くことはできませんが、人と人を結びつけるという私たちの活動は、少しずつ効果が出てきていると感じています。

Q4. 研究者を目指す若手女性研究者や女子学生へのアドバイスをお願いします。

これからは、まちづくりにおいても、生活者や利用者の視点がさらに重要になります。地域住民が何を求めているのか、社会の情勢はどのように変化するのか、を的確に読みまちづくりに反映させることが出来る人材が求められています。地域活動を通して、何が問題でどうすれば解決できるかを考えることで、多くの学びがあります。まちや社会に関心を持ち、多様な人と交流し、多くのことを経験してください。

Message

社会に関心を持ち、
多様な人と交流しよう！

